

原稿用紙 3 枚以内掌編小説シリーズ

「コミュニケーション」

国際間、世代間、たまたま隣にいる人との

“Communication”

International, inter-generational,
with unknown neighbors

うときゅういっき

物書き

うときゅういっき



原稿用紙 3 枚以内掌編小説シリーズ

コミュニケーション 1

Communication 1

「老斗（らおど）」シリーズ

“Raodoh”series

うときゅういっき

By Khazu san

物書き

うときゅういっき



老斗シリーズ目次

- 序 芭蕉に倣う
- 本編 掌編小説 1 (定本)「老斗 (らおど)」
- 本編 掌編小説 2「生き物パーク」
- 本編 掌編小説 3「警告」
- 本編 掌編小説 4「うちのオヤジは「怪人」 抜きの二十面相。基っ、百面相」
- 本編 掌編小説 5「お山の杉老木」
- 本編 掌編小説 6 (改訂版)「真夜中の秘密会議」
- 本編 掌編小説 7「お金儲けと人気取り」
- 本編 掌編小説 8「仕方ないので」
- 本編 掌編小説 9「何故だろう？何故かしら？」
- 本編 掌編小説 10「も」
- 本編 掌編小説 11「性分 (しょうぶん)」
- 本編 掌編小説 12「中継ぎ走者」
- 本編 掌編小説 13「歌」

●本編 掌編小説 14「道理なるも、勘弁してよお」

●本編 掌編小説 15「チリツモに軍配」

●本編 掌編小説 16「古狐」

●本編 掌編小説 17「なあんだぁ」

●本編 掌編小説 18「女子にも男気」

●本編 掌編小説 19（改題版）「おなごも男気」

●本編 掌編小説 20「お詫びの心算（つもり）」

●本編 掌編小説 21「それ前提で…」

●本編 掌編小説 22「結構、義憤」

●著者プロフィール

序

2022/8/11

芭蕉に倣う



かなり以前、

人にものを伝える表現形式としては、口承伝播性（口にし易さ）、読者想像範囲の広範囲からして

「芭蕉の俳句が手本。このコンセプトを活かし、今少しガイド的な言葉添えをした新しい表現形式が出来ないものか？」

みたいな事を書きました。

なのに、一向にそれが出来ない。

例えば

直近記事「見間違いで逆効果」

の中で、

「人は思っている以上に遥かに優れた想像力がある。

高いアンテナとレーダーを備えている。

アンテナやレーダー感度がこちら側の想像以上に高い多くの方々からみれば「何も言わなくても見ればわかる（感じる）」ので、それだけで十分なのに、それ以上敢えて口にしたり

パフォーマンスしたりした時点で完全に「過多」「過剰」「嫌味」「これ見よがし」としてしか捉えられていない事に気付いていなかったのです。

記憶や印象に残してもらいたいがためにしている行為が、却って記憶や印象に残す事への「拒否反応」を起こさせてしまっている」

しかし是も

昔のある芸人さんのギャグフレーズ

「んもう、言わなくてもいいのに、言うんだもんなあ」

を使えば他の文言は一斉不要だった。

伝えたい事を表すのに自分の場合原稿箋3枚を要していたのもたった2行で十分だった。

で、今回その反省も踏まえ訓練がてら掌編小説を原稿箋3枚以内で書き表すトライアルを始める事に致しました。

「芭蕉の俳句が手本。このコンセプトを活かし、今少しガイド的な言葉添えをした新しい表現形式が出来ないものか？」

本書はその訓練に掌編小説を原稿箋3枚以内で書き表すトライアル・シリーズで御座います。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「老斗（らおど）」

うときゅう いっき

本編

2022/8/7

掌編小説（定本）「老斗（らおど）」



キリッとして如何にも気の強そうな顔をしているのに、意外にも子供好き。
お店にやってくる子供を見ると相好が崩れる。
何度来てもやはり相好を崩す。
見てくれ構わぬ働き者。地べたにはいつくばって念入りに雑巾掛けをする。
故国からやってきた後輩の面倒もよく見る姉御肌。
反面少し焼きもち焼き。
それはすぐ表情に出る。
子供みたいなところもある。
思ったよりお茶目でユーモラスだ。
けれど頭はなかなかいい。
学がある訳ではなさそうだが、気働きと回転が速い。
今どき我が国には居ないタイプ。
それで外見はというと、実際そんな恰好をしている訳ではないが、イメージとして
「黒いチャイナドレスに身を包んだ謎の美人人妻スパイ」
初めお互いの国の言葉を聞きあい教え合う処から始まって、
助けたり助けられたり、
庇ったり庇われたり、
手に入りにくいものを手に入れてやったり、家族にしか出さないという賄い料理を食べさ

せてもらったり。

行くと自分の紹興酒のボトルには一目見てわかる様に必ずゴム輪が巻かれておりラベルの上には「老人」と書かれている。

初めは何も言わなかったが、だんだんこちらの気持ちが動くにしたがって気になりだした。そしてある日

「確かに俺はじいさんだが、何もわざわざ「老人」と書く事はないだろう。なんで「老人」と書くんだ？」

と聞いてみたが、なにやらのやにや笑うばかりで答える素振りがまるでない。

顔には「ヒッ、ミッ、ツ」と書いてあるように見える。

例のお茶目顔の上にそう書いてある。

処があるとき、本人がしばらく席を外していたので、幾分暇を持て余し、そのボトルを何気なく見てみると「老人」と書かれているとばかり思っていた文字が「老人」ではなく「老斗」と書かれていることに気づいた。

「老人じゃないのか。でも老斗ってなんの事だ？」

それで手元のスマホアプリで調べてみると「らおど=いつも斗(たたかって)いる」と出た。

戻ってきた俊麗にそのことを言うと

「アナタ、イツモ、タタカッテイル」

と恥ずかしそうに照れ笑いをした。

其れが得も言われず可愛らしかった。

「カワイイってなんていうんだ？」

「くーあい」

「じゃ、ニー、クーアイ、クーアイ。フェイチャン (=very)、クーアイ」

結局彼女とは結ばれることはありませんでした。5年前の事です。

しかし俊麗が呉れた「老斗」という言葉だけは心の中核に残っております。

お怖れながら、今思えばあの時初めて耳目した「老斗(らおど)」というたった一音一語がひとの「性分(しょうぶん)という奥底」に忍び込み、その後の自分の歩き方を密かに決定づけたような気がしないでもありません。

本編

2022/8/14

「生き物パーク」



普通の野球帽だと首回りが熱いので戴いた麦わら帽子をかぶって庭の草刈りをしました。麦わら帽子は二、三日前、庭の草刈りをしていた時に来られた方が「それではあんまり暑かろう」と翌日自宅から持って来て下さったのです。確かに見た目は余りよくありませんが実用的で遮熱効果は抜群です。草刈りと言っても電動丸鋸回転草刈り機の鉄の刃を水平ではなく垂直に立てて作業を進めます。「草を刈る」というより「根切り」をする為です。草はすぐ伸びてくるので刈る頻度を減らすのが目的です。根切りをすると栄養が行き渡らないのでそう直ぐには生えてきません。「炎天下で毎日そんな作業をしないでも除草剤を使えば良かろうに」と助言して下さる方もいらっしゃるようですが、それでは草花をボタン一つのハイテク兵器でオートマティックに「一子残さず根絶やし」にしてしまう様で、なんとなく気が引けて今一つ実施する気になりません。今年の夏はエアコンが壊れておりますので少しでも涼を得る為に窓や扉を昼夜分かつて開け放っておりますが、そのせいか屋外の様子を見る機会が増え内外（うちそと）の往来も随

分と増えました。

特に草を刈った後は、小さな生き物達が避難の為に建屋の方に逃れてきている様で目に留まりやすくなっているのかもしれませんが。

大カマキリ、セミ、ヤモリ、カミキリムシ、カナブン、スウィッチョン、足長バチ、カトンボ、他にもいろいろ。

その様子から

「うちは生き物パークだな」

という気がして参りました。

大カマキリはセミを頭から体ごと喰らっております。

人間の自分から見ると如何にも残酷この上ないのですが、大カマキリにすれば食っていく為。セミは既に死んだ空蟬なので自身は痛くも痒くもない。

ですがその脇をヤモリがすり抜けようとするのをみると流石に

「お前を喰われるから逃げろ」

と声を掛けたくになります。大カマキリにしても空蟬よりは生ヤモリの方がご馳走でしょうから。

カミキリムシは何故か皿洗い用の流しの中でじっとしています。水が欲しかったのでしょうか。

カナブンは書机脇の書類入れの金網部分にへばりついていました。深夜仕事なので多分蛍光灯の明かりに惹かされたのでしょうか。

スウィッチョンは子供の頃に見て以来 60 年ぶり位に見ました。結構いっぱいいます。

足長バチは何故かよく自分の眼鏡の左のレンズに止まります。

つるつるのレンズ表面の何処に足を引っ掛けているのでしょうか。

カトンボは朝起きると鼻の上に止まっていたりします。

寝ている間によく押し潰さなかったものだと少しひやひやになります。

気のせいかどの生き物も言葉が通じるみたいです。

話しかけると逃げません。

昨今

「この世は人間だけでは、ないのだなあ」

とつくづく感じております。

非常に「感慨深い意味深な」何かに行き当たった様な気が致しております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「警告」

うときゅう いっき

本 編

2022/8/16

「警告」



「自分を大切に。
とお前が言う尤もらしい説は
「私の都合を無条件に最優先して大切にしろ」
という事でしかない。
それが、みながお前の言に対して直ぐさま抱く
違和感の正体だ」
ある晩夢枕で、夢の中の言辞だとは思えない程、筋が通って理路整然とした物言いでそう言
われました。
誰が言ったのかは分かりません。姿が見えませんでしたので。
ですがその時の推測では亡くなったオヤジの戒めの言葉か、日頃説教ばかり垂れていた相
手である息子の逆襲の様に思えました。
12 年間に渡るうつ病から「奇跡的な生還」「寛解」を果たし幾分自信過剰気味になっていた
時期です。
「あれを超えたんだ。あれを超えられる人間は草々居ない。なまじ「ありきたりの成功」よ
り、たとえ戻った地点が人から見て「並みのポジション」であったとしても「逆境を克服」
した分アドバンテージは自分の方にある」
そんな理屈を産み出し「同じ様な苦しみを味わっている人々に自分の経験が少しでもお役
に立てれば」と美辞麗句の「お為ごかし」を用い、メンタルヘルスケアルームを開業して間
もない頃でした。
しかしそこをガツンとやられました。
その時の自分の感想とは全く異なった発想のものでしたので誰かに「夢を乗っ取られた」様

な気がして狼狽えると共に少し怖くなりました。

「天網恢恢疎にして漏らさず」

天の網は一見疎い様に見えるが、どうしてどうしてしっかりと見張っていて決してその嘘（ダブルスタンダード）を取り漏らしたりはしない、という意味合いの言葉も思い浮かびました。

実はその頃「ド素人が始めた商売。そう直ぐにクライアントが付く訳もなかろう」と開業後の不測に備え繋ぎ資金目的で株式投資を勉強し始めたていたのですがそんな折どの証券会社にも属さない「独立系」コンサルタントの方の四方山話に目が留まりました。

「自分は独立系です。その分収入は不安定で世間の風当たりも強い。ですが独立系は自分を抱えて下さる証券会社の都合に左右されての我田引水や白を黒と言い含める必要があります。そういった都合に左右された我田引水話を「ポジショントーク」と言います。

ポジショントークとは所謂「おいしい話」の事で飛びつき易い反面、投資家の方々の目を曇らせ、後々には逆に多大な損失を与える事もしばしばです。

それでは幾らコンサルタントとしての実入りがよくなってもコンサルタント本来のミッションを果たしたとは言えません。お代金を頂戴するに値すらしません。

なので、可能な限り自分はこの「独立系」に拘りたく思っております」

今は亡きオヤジが夢枕に立つ筈もなく更に倍して天のお告げであろう筈もない。

神懸りを排し科学的な視点で考えれば恐らくこの「お告げ」は上述の「独立系コンサルタント」の方の言が自分の危機本能に引掛かり

「好事魔多し」で「成功は失敗の素」

を告げる為に夢の形を借りた。

そう考えると是は無意識界からの

「警告」

であろうと納得がいきました。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「うちのオヤジは
「怪人」抜きの二十面相。
基っ、百面相」

うときゅう いっき

本編

2022/8/17

「うちのオヤジは「怪人」抜きの二十面相。

基っ、百面相」



生前はコワイオヤジでした。コワイという記憶しかありません。

「東大に行かんと乞食になるねえやぞ」

と小学校4年の時に東大出のオヤジに「マジ顔」で言われ、死ぬ程ビビリまくった記憶があります。

なので、コワイという印象しかありませんでした。

しかし亡くなってから時間が経ってみるとその他のいろんな面が思い出されてきました。亡くなって時間が止まり「コワイ」の追加上乘せがそれ以上積上がらなくなると、ある所から反転して少しずつ風化する分、それ迄「コワイ」の陰に隠れていた他の面が逆に力を得て相対的に浮き上がってくるのかもしれませんが。

例えば学徒出陣で外地に衛生管理将校として従軍していた折「従軍慰安婦のバシリ」をやっていたことや、

小学生の頃でしたか、突然自分の鼻の脇から爪で白い脂肪を絞り出し、指でもんだ後

「どや、嗅いでみ。めっちゃ臭いどお」

と帝大出の超インテリとは思えぬ意味不明の行動に出、自分たちが顔をしかめると、今で言う処の「ドヤ顔」をした上、とても愉快そうにお腹を抱えて笑っていた記憶とか、普段はお袋を怒鳴りつけてばかりいた亭主関白を絵にかいた様なオヤジが

「ホンマは、定年になったら、子供の頃からの夢だった天文学者の真似事で、田舎ン山奥に天文台をぶっ建てて星の観測三昧さあしたかったねえやが、そんな山奥じゃあアイツが不便やろうから、止めたわ。冬になるとアカギレが酷うなって、冷たい水は扱えんさかあな」

と申し、

貧乏故に養子になった育ての親については

「大学出たらホンマは外交官になりとうやったがぁ、大恩あるじいさんばあさん置いたまま外地に赴任する訳にもいかんし、これも止めたんやぁ。外交官になろうと大学受験も当時主流の外交語、フランス語で受けたんやが、結局無駄になってもうたなぁ」

とも申ししていた事を「コワイ」という根雪が時間と共に溶けその下から柔らかい芽が一つ又一つと出てくる様にぼつりぼつり思い出されました。

「オヤジはコワかったんか？優しかったんかぁ？どっちがホンマのオヤジ？」

しかし是は自問した後で直ぐ様全くの愚問に思われました。

「その時々やあな。「スタッフ一丸、いつも変わらぬニコニコ接客」みたあな「最終窓口、常に一本の金太郎飴」を求める自分に無理がある。その方がよっぽど out of 道理や」そう気付いたからです。

「人は、ちょっと変われば風見鶏。いつもと違えば裏の顔。色んな面や感情を素直に出せば情緒不安定、おとな気ない、最悪行けば多重人格言うが、風見鶏で裏の顔があって色んな顔を持っている方に道理がある」

オヤジも時にコワかったり、時に優しかったり、時に変だったり。

怪人二十面相は別に怪人でも何でもない。

「人は皆、普通、大抵、二十面相。基っ、百面相」

それを表に出すか出さないか。

今思えばうちのオヤジは普通にそれを出していた natural なオヤジだったと思います。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「お山の杉老木」

うときゅう いっき

本編

2022/8/18

「お山の杉老木」



「少しは近所の迷惑も考えてください。商売だか何だか知りませんが、電話の話声やらなんやらうるさくて仕方ないんですけど」

と言われたものですから、コロナ禍以降資金繰りが苦しく自宅も半分抵当に入っていることもあって

「はい、大変申し訳ございません。早々に片を付けて成る丈早く引っ越しますので」と答えたら

「何もそこ迄とは申しませんよ。お静かにして戴ければ結構なだけですから」と言うので

「逆に此処、静か過るんですよね。まるで生活音が聞こえないですもの。防音材か何かお使いなんですか？」

と、言わなくてもいい事を言ってしまう日頃の「一言余計癖」がつつい出していました。

すると奥方様は

「そんなこと関係ないでしょ。普通に生活していればそんなに音なんてする訳ないでしょ」

とご立腹。

「でも、子供の頃は包丁でまな板をトントン叩く音とか旦那が湯船につかって口ずさむ鼻歌とかよく聞こえていましたけどねぇ」

と又々余計の上重ねをしてしまい、それが更に奥方様のイライラの火に油を注いだ様で「知りませんよ、そんなの。いつの時代の何処の話です？大昔の下町の話なんじゃないですか？今の住宅街でそんなのありっこないでしょ。しかも此処みたいな高級住宅街では特に」

その「高級」にカチンときて、それ迄の自分の悪癖に対する反省が吹っ飛び、「アンタ、何様よ？」

と、自然に自省モード「一時停止」戦闘モードへ「漸次移行」の映像が眼前に流れました。

そして日頃の観察から

「なんか、この静けさ、潜水艦の中みたいなんですよ。物音一つしない。しないというより物音一つ立てない。

絶対にその存在を察知されてはならないし気取（けど）られてもならないから。

見つかりそうになると直ぐ潜る。

家の中にいても息を殺してヒソヒソ、抜き足差し足忍び足。

そのくせ周りの様子が気になって仕方ないから相手がよそ見しているのを確かめた上で密かに潜望鏡を水面上に出して周りの様子をこっそり伺う。

見つかっては困る。悟られても拙い。絶対に表面上は見て見ぬ振りの知って知らぬ振り。

「ああら、何の事かしら？全然気付きませんでしたわ」

とか」

「し、し、失礼な!!

何を根拠にそんな事を。

喧嘩をお売りになってらっしゃるの？」

「滅相もない。第一弊社定款に「喧嘩の売買」は未登記。それやったら商法違反でお上にしょっぴかれますう」

この変化球、追尾不能な極超音速言語弾は効いた様でした。

奥方様はくると踵を返すなり怒りも露わに靴音高く帰って行かれました。

第三者の路面にしてみれば「とばっちり、喧嘩売られてはた迷惑」もいい処だったかもしれません。

売り言葉に買い言葉

いらぬ売り買い

はた迷惑

毎事後必ず心の中で詠むのですが

その抑止効果は不明で

「いつしか詠むだけセレモニー」

根本的にはスルーすればいいだけとは知りつつ

向うが伸び上がればその又上へ出ようとする。

いい歳こいて未だ抜け出せません

お山の杉の子背比べから。

（注）今回は実話をベースにした話ではなく完全なフィクションである事を敢えて添述べさせて戴きたく思っております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

(改訂版)

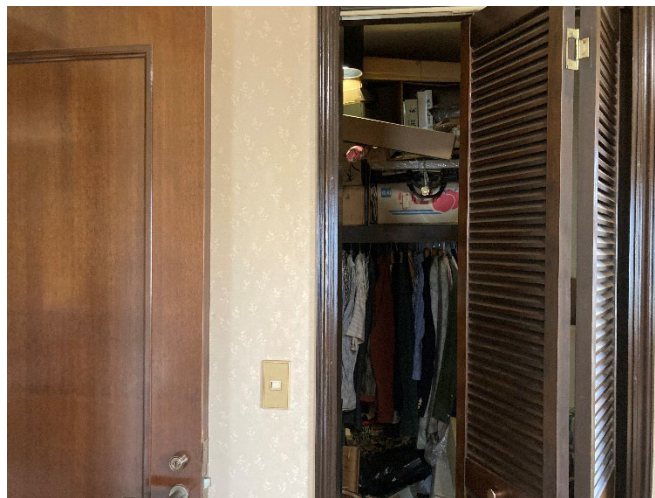
「真夜中の秘密会議」

うときゅう いっき

本編

2022/8/25-2

(改訂版)「真夜中の秘密会議」



「あれっ、なんでこねえいな処にお袋のハンドバッグが落ちとんにいやろう？」
探し物があって以前両親が寝室として使っていた部屋に入って直ぐの処に皮のハンドバッグがあるのに気づきました。
このバッグは2年ほど前、お店の資金繰りに窮して古物商へ査定に出したのですが、昨今は動物愛護の観点からワニ、蛇、ダチョウ等嘗ては高価で取引されていたものでも買い手が激減しているとかで二束三文の値段しか付きませんでした。
それで仕方なく売のを止めてクローゼットの中に戻しておいた心算だったのですが何故かそれがクローゼットの前に落ちておりました。
確かにクローゼットの扉は空気の入れ替えの為に開けっ放しにしておいた記憶はあったのですがバッグ一つを仕舞忘れた覚えはありませんでした。
「妙な事があるものやなあ」
この家は両親が亡くなって以降自分が遺言に従って引き継いだのですが、一人で住むには矢鱈だっ広く陰影部分もかなりあるせいか時折「ポルターガイスト（超常現象の警え）」みたいな事がしばしば起こっておりました。

風も吹いていないのに扉がガタガタ鳴ったり誰もいない筈の二階をかなり体重のある人間が歩いている様に床がミシミシ軋んだりしていたのです。

それでこのバッグの一件も「例の奴やろう」とあっさりケリをつけ、階下に降りました。

「ダメだったじゃないのよ」

とクローゼットの中でお袋が使っていた古いカーディガンが言いました。

「気づきはしたけどその先、昨晚の打ち合わせで描いた筋書き通りにはいかなかったな」と今度はオヤジが使っていた古カバンが答えました。

実は昨夜このクローゼットの中で両親が生前に使い今ではその肥やしになっている古物達が秘密の会議を開いていたのです。

議題はズバリ

「私たちを使って!!」

主旨はと申しますと

「人間様は自分が使わなくなると人にあげたりもせず、ただ単に仕舞っておいたり捨てたりする。確かにその人の中では私たちは「もう終わっている」のかもしれないけど私達からすると「まだ全然終わってなくて」これからも引き続きお役に立てるしもっと活躍もしたい。なのにその場が与えられないままこの世から消されるのは如何にも残念でならない。この不完全燃焼から一刻も早く脱して再びのびのびと活躍できる良い方策はないものか？」

でした。

その折、古カバンが提案したのが

「ハンドバッグ、お前が一番目立つからちょっとご主人様の目に留まり易い処に転がり出してみろよ。まずは第一回目として」

で、それがものの見事に外れバッグが文句を言ったのが先程の件だったのです。

「なあに、ダメだったらやり直せばいい。何度でもやり直せばいい。兎に角やれる限りの事をやってみよう。諦めるのはその後だ。なあ、みんな」

相談の結果、次はこの屋の主が好きそうな破れ「長財布」が転がり出る事で話が決まりました。

「直して使ってくれるかもしれんからな、今のご主人自身が」

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「お金儲けと 人気取り」

うときゅう いっき

本編

2022/8/21

お金儲けと人気取り



「一体何が違うの？是の何処が新製品なのよ？」

という声をしょっちゅう耳にしました。

今から 30 年ほど前に家電製品の企画をやっていた頃の事です。

ところが最近、自分がその受け手側になると

「また同じ様なの、やっているよ。いい加減ウンザリする。何か他にないのかなあ？」

とブーブー言いながらみる番組を変えたり、買う店を変えたり、参加するイベントを変えたりします。

両方とも自分なのですが、やっていて我ながら「随分勝手なものだ」と思います。

30 年前と今、昔は作り手側、今は受け手側、いずれの立場に立ってみても結局周りは既視、既知感だらけ。

しかしよくよく考えてみればこの既視感、既知感は何もここ 30 年で始まった事でも何でもなく、将又（其の時代に生きていた訳ではありませんが）20 世紀になってからでも、産業革命が始まってから以降でもない気が致しました。

「十年一日の如く」？

いやいや

「百年一日の如くに」？

まだまだ

では、まさかかもしれません

「人類史一日の如く」

とか？

そう、その最後の一文が一番びったりする感じ。

昔、昔のその昔、暇に飽かせてこんな事を考えた時期がありました。

ある事情があって大学にも登校できず、かといってアルバイトをする気にもならず自宅で悶々としていた、大学院生ではなく学部5年生の頃の事です。

「一体この世は何によって動かされているのだろうか？何が動かしているかが分かればその動きを観察すれば全体を把握できる様な気がするけど、それは何なのだろうか？」

そこでハタと思いついたのが、語呂合せが先立ちましたが

「数字と愛情、二輪立ての自転車操業」

人の行動動機、動作原理、換言すれば「追い立ての元」は

「数字、即ちお金の動きとそれを求める流れ」

と

「愛情、即ちどうやったら注目されて人気が得られるか、可愛がられるか、ちやほやしてもらえるかを求める流れ」

是を求めて常にこぎ続けていないと倒れてしまう自転車操業。常に何かに追い立てられてこがざるを得ない自転車操業状態が現在。

この自転車操業状態を産んでいる二つの車輪の動きを追いかけていけば世の中の大半の動きが理解できそうだと。

と。

そして是は当たらずとも遠からず、でした。

という事は、

今思うに我々は「人類史一日の如く」この「自転車操業の繰り返し」をアクセクやっているだけの様な。

だとしたら、未練タラタラ承知の上で

「もう振り回されるのは御免だ!!」

と敢えてこの二つに踵を返し、視界を切り替えて、今の「快（ちやほや）」とは全く異なる別の何か「佳（控えめでよいもの）」を探し始めた方がいい様な気がして参りました。

今の自分がそのような感想を抱く様に至ったのは

「多分自らがもう爺さんで、生き馬の目を抜く日々にいい加減懲（こ）り、飽き、それに疲れたせい」

という気がしないでもないのです。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

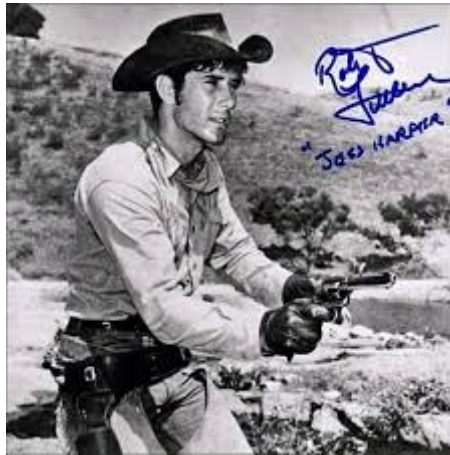
「仕方ないので」

うときゅう いっき

本編

022/8/22

「仕方ないので」



子供の頃、よくチャンバラごっことかでたらめ英語ごっことかをやって遊んでいました。
いずれも当時のテレビ番組の影響でした。

チャンバラごっこは豊臣秀吉の残党が「大悪党」徳川家康にかたき討ちをするのがテーマ
の「白馬の剣士」ごっこ。

でたらめ英語は「ララミー牧場」とか「ローハイド」の、夜の吹き替え版とは違う原語版
を時々いやっていたのですが、それを見てそのまねをしておりました。

いずれも元は夜のゴールデンタイムの番組だったのですが、昼下がりの視聴率空白タイム
を埋める為にテレビ局が、

余りスポンサーが見つからない、結果コストも掛けられないのでそれらの再放送や吹き替え無
し版をその時間帯に放送していたのです。

夜の人気番組だったものが昼間観られる。

なので、小学校から帰ってくるなり鞆を置くのも早々にそれらを見るのが日課になってお
りました。

チャンバラの真似は兎も角英語の方は喋っている意味など分かる筈もなかったのですが、
特徴的だった R 巻き舌や no option(仕方ねえ)や no idea(さあね)を表す肩すくめのジェス
チャー等の真似(copy)をしておりました。

余りのカッコよさに「シ、ビ、レ、たあ」からです。

処が中学に入って学校で教科として英語を習い始めるとこの R 巻き舌も肩すくめのジェスチャーも何処にも出てこない。

ただ只管板書された黒板の文字をノートに写したりカクカクの発音で教科書を読んだりの「あんまりな」期待外れに愕然。

「なんやあ、これ？じえんじえんおもろうないやんけえ」

この傾向は高校に進んでからも同じだったのでいよいよ業を煮やした自分は他の活路を求めて海外文通を始める事にしました。

インターネットの無い時代、海外との安価な交流手段はそれしかなかったのです。

処が文通運営業者の作成したガイドブックを元に「やっところさ」出した手紙にはまるで返事が付きませんでした。

当時の海外文通は投函して返事を受け取る迄優に 2 か月はかかっておりました。

国内での手紙のやり取りしか知らなかった当時の自分は是を郵便事情による処が大であるとは考えず「話の内容がつまらんからやろう」に傾き始めました。

何しろ当時のガイドブックには

May I introduce (to) you?

My name is ●●●

My hobbies are ▲▲▲ and ×××

And what`s your hobby?

相手のプライバシーやデリカシーへの配慮まるでなし。

今なら「何、この人？失礼ね。初対面の人間にいきなり何突っ込んだこと訊いてくんのよお？」

と言われても仕方ない様な不躰且つ「誠に残念な」例文しか載っていなかったのです。

「確かに是、己が受けたらいややしなあ」

それで一転、逆に当時海外に出すには失礼と思われていたありふれた日常の topics にダメ元、ヤケクソで変えました。

Today from the morning I was (=had been) very hungry.

Then I got out of rule`s lunch.

In Japan we say it” Haya-ben” you know?

に。

他に仕方がないのでそうしたのですが是が思いがけず好反応。

届くのには 2 か月掛かるのは同じでしたが、

返信の度合がグンと上がったのです。

「仕方ねえ、そのヤケクソが役に立ち」

でした。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「何故だろう？」

何故かしら？」

うときゅう いっき

本編

2022/8/23

「何故だろう？何故かしら？」



「嫌いな食べ物ってある？」

「カキ。海の牡蠣じゃなくて果物の柿」

「あらメズラシ。なんで？」

「分んない。でも何故か食えない」

「干し柿なんておいしいけれど、干し柿もダメ？」：

「干し柿 OK」

「なんで？どういう線引き？」

「分かんない。ところでなんで、そんな事訊いているの？」

「わかんない。なんとなく、よ」

「そう」

「いちいちウルサイとか言わないの？」

「自分もよく人になんで？なんで？訊くから」

「ガキンチョみたいね」

「息子にも言われる時がある。どっちが親だか分らないって」

「あらま」

「大人の癖になんで、何で、って、ウルサイかららしい」

「らしい、じゃなくてウルサイ、のよ」

「確かに大人は子供が質問すると嫌がるな。自分の場合はガキ親が子大人にだけど」

「はははっ。可笑しい。

でも分るわ。

きっと突っ込まれたくないからじゃない？或いは突っ込まれてボロを出したくない。

特に親役は」

「でも、分からない事なんて一杯あるよね。大人になっても。

それって別に普通なんじゃないの？

普通なのだから分らなければ分らないって言えばいいだけじゃないの？」

「子の手前とか親のメンツとかじゃない？

なんで？なんで？色々訊かれて一つも答えられなかったら流石にヤバいっしょ」

「じゃあ、一緒に調べてみようか？そう言えばいいんじゃないの？昔と違ってチョコチョコと「ググる」だけなんだから」

「理屈はそうだけどそういう展開にはなっていないみたい」

「子供の頃、訊いて分らなければ図書館に行くとか本屋で立読みとかしていたけど。

確かにその頃なら親と一緒につき合わせるには外出迄しなくちゃならないから大変でそんなの、あり得なかった。

でも今ならスマホやパソコン使ってその場で一緒に調べられる。

かなりお手軽になっているのに何でしないのだろう？」

「身近な分だけヤブヘビ度が up するからじゃない？」

「結構、心理学者で社会学者な「科学女子」だねえ」

「そんな事言われたの、初めて。大抵理屈女ってウルサがられる」

「僕には面白い話し相手だけど」

「ガキンチョ目線で？」

「そう言えばガキンチョの頃よしいえももこ先生っていたの。

その先生色々訊いても嫌がらずにいつも「うんうん」頷いてくれたし、スゴクいい匂いがして胸が一回空回っちゃって」

「優しい名前ね。名家っぽい感じもする」

「分んない。でも子供心にも「Grace Kelly」だったな」

「何それ？」

「Grace Kelly って後にモナコ王妃になったアメリカの女優。特別で優雅。

でも「優雅」だと何かあの優しい部分を掬い上げるには不十分な気がして嫌だったから

「優雅」をまず英語の「grace」に換え、更に「血の通った温かみ」を出したくて生きた人間の Grace Kelly の名前を使ったの。Kelly の細面とももこ先生の丸ぼちゃ全然違って余り上手い置き換えにならなかったけど」

「スゴイ手の込み様、なんで？」

「だから特別だって」

「特別だと手が込むの？」

「込むさ。なんで？」

最近違うの？」

「？」

「？」

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「も」

うときゅう いっき

本編

2022/8/25

「も」



「あれもこれもそれも、そんなに買ってどうするんだ？」

「あれもこれもこれも必要なの。だからあれもこれそれも全部買うの。悪い？」

普通奥さん方はスーパーでは「あれもこれも」といった買い方はしない様ですが、例えばアウトレットのブランドバーゲンとか趣味に関するお店とかではまるで別人になった様な買い方をする様です。

しかしそれをイジルと奥さんは後で口を利いて呉なくなったり、逆に自分が藪蛇的逆襲を食らったりするので旦那さんは大抵それ以上言いません。

いや大方の旦那さんはそれすら言わずに無言のまま奥さんに付き従い、制限時間内に奥さんがポンポン投げ入れる「買物ゲーム」のアシスタントとして「取り損ねては大変」とばかりにバスケットを持って右往左往しているのが一般的な様です。

そういった傾向を持った奥さんの中の一人が言ったのかどうかは知りませんが最近新聞に「DV被害相談員」の話として

「「アナタってホント便利なATMよね。いつでも引き出せるし幾ら引き出しても文句を言わない。ホント、便利」の言葉に耐え切れなくなった旦那さんが遂に切れてしまい「言葉によるDV被害者」として世間とは逆の訴えをする例が増えている」

との記事が載っておりました。

こういう例を見聞きすると

「なんで結婚なんかしたんだろう？」

と思ってしまいます。

かく言う自分も嘗ては結婚をし、その後離婚したのですが、ある時息子から

「よくそれで結婚なんかしたよね。何をどうするとそういう事になる訳？」

と言われた事もありました。

その時は完全に返答に窮してしまいました。自分でもよく分らなかったからです。

「はて？その経緯は兎も角、そうならない様にするには、どうすればよかったの
だろう？」

息子の前で全ての罪を女房に着せ、自分ばかりが被害者面して愚痴るのも男として情けなく
思えたので敢えて少し前向きなポーズを取った事を覚えております。

しかしその離婚後に分ってきた事は、別れた女房だけが特別だったという事ではなく、周
り中、大体が似たり寄ったりの傾向で、その傾向は結婚生活だけではなく結婚より少し広
い枠組みの家庭生活や所謂「世間」と呼ばれる会社生活や社会生活のそこ此処に展開され
ている事にだんだん気付いていきました。

でも今曖昧に言っている「その傾向」って一言で言う又何？

もしかして

「自分「だけ」で、ひとも、の「も」がない？」

人が自分を第一に考えるのは生物が有する自己防衛本能から言って当然。

悪い事ではない。摂理だから。

しかし

「それはいいとして、その先何故相手「も」同じだと気付かなかったのだろう？

同じ「も」でも「あれもこれもそれも全部買うの」の「も」じゃなくて「ひと様も」の
「も」

同じだから「先陣争い」

同じだからこそ「痛み分け」

「も」って結局「はんぶんこ」

つまり share.

是が妥当かどうかは分かりませんが今度息子に会ったら

「次は share 第一で行く」

そう言おうかと思っております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「性分（しょうぶん）」

うときゅう いっき

本編

2022/8/25-3

「性分（しょうぶん）」



♪わたしの～ラバさあん、酋長の娘え～。色は黒いがあ、南洋じゃ美人～。

赤道お～直下あ～、マーシャル群島お～、ヤシの葉陰でえ～テクテクう踊るう～♪

自分が子供の頃、機嫌のいい休日にはオヤジが湯船で近所迷惑なんのその、辺り憚る事なく大声を出して歌っておりました。

昭和 17 年、学業を切上げ学徒出陣で南方方面に出征。

当初は主計中尉、即ち兵員の糧秣を管理する非戦闘員の経理中尉として巡洋艦に乗り込んでいたのですが、戦況が悪化するにつれ乗り組んでいた船は沈められ、その後陸に上がり戦闘員である陸戦隊に転籍。その一員として体に爆弾を巻き付け、タコ壺から飛び出して、上陸してきた敵戦車に体を轢かせて自爆砕する訓練ばかりをやっていたのだそうです。

冒頭の歌はその頃に覚えた様です。

当時小学生だった自分には、ラバさんが何の事で、マーシャル群島が何処にあって、テクテクがどんな踊りなのかは分かりませんでしたが、夏休みに佐賀のおじさんの処に遊びに行った折訪れた「三保の松原」の風景を思い浮かべ、そこでフラダンスを踊るハワイの女の人を想像致しておりました。

オヤジが自爆弾になる訓練をしていたのを知ったのは大学生になってからの事で、小学生の頃は無意識にはありますが「ハワイの様な所にリゾートに行っていた」位にしか捉えていなかった様な気がします。

オヤジが「自爆弾だった」事を知ったのは自分が卒業間近な大学生最後年のある諍いがきっかけでした。

「お主あ、来年さあ卒業ばあ言うだに未だシルクロードの探検家になるうだら、ブラジルで移民になるうだら、小説家になるうだら訳ン分からんこつばかり言いよる。そげなこつばあ言いよってからこん先、どぎゃんなあすとか？お主あ？あん？」

売り言葉に買い言葉

「オイにはオイの考えばあありよるバツテン。オヤジんごたあ、宮仕えばあしとうなか。そげなあ殺生与奪の権ばあ人に握られた様なあ暮らしばあしとうなかばってえがさい」弾みでそう啖呵をきったもののその裏付けが全くない事を知っていたのは何を隠そう当の自分自身でした。

そんな内実でしたから吐いたその言葉に重み等あろう筈もなく、そのくせオヤジを宮仕えだのと見下し、「殺生与奪の権」等とさも経験を積んだかの様に偉そうな言葉を吐く息子に今迄になくオヤジが「キレタ」のです。

「言うコツは立派じゃが、言うとお前はぺらっぺらあの、ぺらじゃ。紙んごたあ軽!!」と、怒りも露わに先の戦争実話を突付けてきたのです。

グウの音も出ませんでした。

棒立ちの自分が悔しくて、悔しくて、握った拳が壊れる位悔しくて…

その時密かに肚決めしたのが

「平時だが、これから先敢えて難所を選んで歩きその総和量で戦争の苦労を超えてやる。聞くに堪える重みをつけ、紙じゃのうて水底で巡洋艦級の船さ留めよる錨になちやるうけん。何年かけてでもなるとやけん」

この性分がその後の歩き方を決めた様です。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「中継ぎ走者」

うときゅう いっき

本編

2022/8/27

「中継ぎ走者」



「最近体が動かなくなって気力もわかなくなり何もする気がしない。歳のせいだな」よく耳にする言葉です。

しかし体が動かなくなったから気力がわからないとも一概には。

観察するにジョギング等を「意図的にする」人よりもむしろお金がないので「働かざるを得ない」や他に誰もいないので「動かざるを得ない」様な「図らずも」な人の方により馬力を感じる。

ここである事に気づきました。

それは「働かざるを得ない」の「働く」や「動かざるを得ない」の「動く」いずれの中にも「重い」という文字が含まれている事。

つまり「重い」をするには気力がある「図らずも」な程気力がある。その気力さえ失せねば体はいつでも想定以上に動く。

それを裏付けるかの様に

「体が動かなくなったから気力も失せたといいますが、それは反対です。気力が失せると体が動かなくなるというのが正しい因果関係。病は気からと言いますが、病だけではなく気はあらゆる事に絡んでいます。気が入れば火事場の馬鹿力が出ます」

たまたま東洋医学のある先生がそうおっしゃられるのを耳にしました。

それを聞いて自分の観察に少し自信を得ました。

しかし

「ところで氣って何だ？」

という疑問が湧きました。

思い当たったのは「ハリ」

「こころのハリ」

「でも何故歳とともにハリがなくなるのだ？」

此処で又思い当たったのが「退く」という言葉でした。

退職、退役、退出、要するに「お役御免」

そしていま一つが「残り」という言葉。

残寿命、残資金、残年金、こちらは「カウントダウン」

「お役御免」の上に耳元で「カウントダウン」の音が常にし、この二つの万力に板挟みされ握じ上げられたら生きた心地がしないのは当たり前、元気の出よう筈ありません。

しかしどうすればそこから抜け出せるのか？それを幾ら問うても分からずに、其れこそ氣持ちはこの世に念が残って「残念至極」となるばかり。

「抜け出す方法は？どうやったらハリを？」

その時ふと、自分が起業した理由を思い出しました。

その内のひとつに

「親から預かったものを減らしてはなるまい。増やして孫子に引き継がないと両者に申し訳が立たない」

というのがありました（自分は古い時代の人間です）

「是は自分が中継ぎ走者だという見立て。この考えに従えば譬え自分の寿命には限りがあっても、それで終わりという事はない。先代から預かったものを持って走り後代に渡す一筋の流れの一部になる。引き継ぐ相手が出来たとなれば「もうすぐ終わり」が消え、その時がいつ来るか又その時点、どんなレベルのものを渡せるかも分からぬ「出たところ勝負の出来高払い」だが兎に角その時が来る迄「行ける処まで行ってみよう、そしてどんなレベルのものでもちゃんと渡そう」是なら最後の一日まで全力が出せるし余生も無駄にせずに済む。後は後代を信頼して託せばいい」

自分の世代「だけ」ではない。必ず自分以外の世代「も」見なさい、という風にも聞こえます。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「歌」

うときゅう いっき

本編

2022/8/28

「歌」



昔、歌と言えば誰もが覚え易く、口ずさみ易いのがヒットの条件でした。
ヒットと迄はいかずとも兎に角「国民歌謡」初め、昔から「口伝てに伝えられてきた歌」
は皆そういった考えの元に作られていた様です。
処が或る時からこの盤石に思われたコンセプトに異変が生じます。
何の理由で落ちたのかは知りませんが CD の売り上げが急落しその販売挽回策として
「一回聞いただけでは覚えられない楽曲を作る」という全く逆のコンセプトが登場してき
たのです。
理由は
「そうすれば需要の主体である若い人達はカラオケでええカッコしいをする為に何とか覚
えようと競って CD（直近なら download や streaming の範疇）を買う様になる」
というものでした。
後日この制作秘話を聞いた時に自分は啞然としてしまいました。
「売る為ならそんな事迄してしまうんだ」
その頃自分は知合のじいさんばあさんからよくこんな愚痴を聞かされておりました。

「最近の歌は難しくって全然覚えられない。だから余り歌を聴かなくなったので何が流行っているのかも分らなくなっているよ。だんだん世の中から取り残されていく様で寂しい限りだよ」

それで自分は思ったのですが

「これって将に世代間疎遠、断絶の一因そのものなんじゃないの？ なんだか販売成績上げる為ならじじばばに寂しい思いさせようが世の中ぶっ壊れようが一向に構わん、今さえよけりゃその先どうなろうと知ったこっちゃねえっ、そこ迄考えたら何もできねえぜって開き直っている様な感じだよな」

それどころかこのコンセプトの草案者は「逆転の発想で困難を打開した敏腕プロデューサー」として持て囃される。

会社の業績、業界の復興、マーケットの世代別シーン別再分析による潜在需要の発掘（実は誘導作上げ）。

そして何より個人的栄達。

そうした面では許容、是認、或いは時として奨励される事なのかもしれませんが、結果其れを使う側の今や先行きを却って不幸に導いているのだとしたら

経済隆盛と民心隆幸の背反、相反、逆反

「なんか、悲しいなあ」

と思ってしまう。

そして

「何なんだろう、これって？」

「今やっている事って、何なんだろう？」

「何を自分達は日々血道を挙げて迄やっているんだろう？」

と疑問噴出、懷疑の連鎖、混乱の再攪拌を誘発してしまいました。

薄々は皆が感じている所謂疑問、不適合感、違和感、更に言うに「正体不明の落ち着きのなさ、寄る辺なさ、そして何よりも感じる居心地の悪さ」を放置したまま不問にするのは良くない気がしました。

「確かにちょっと足を止めて考えてみた方がいいみたいだな」

そう思うと何故か戦後復興期の流行り歌 ♪「青い山脈」♪ と ♪「リンゴの唄」♪ を続けて鼻歌ってしまいました。

締めは子供の頃のアニメ主題歌 ♪「魔法使いサリー」♪ と ♪「8（エイト）マン」♪ でした。

明日は「自分が苦しい時の応援歌」九ちゃんの ♪「上を向いて歩こう(sukiyaki song)」♪ と ♪「星に願いを」♪ を鼻歌してみようかと思っております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「道理なるも、
勘弁してよお」

うときゅう いっき

2022/8/29→2023/5/15（書き換え変更）

ある人から

「これって小説なんですか？エッセーとしか思えないんですけど」

と尋ねられました。

それに対してこうお答え申し上げました。

「まごうことなき小説だと自分は思っております。だってこの世の語りの大抵が本人も意識せずに行う自己脚色によるフィクションじゃないんでしょうか？少なくともエエカッコシイの自分は無意識に「色」を付けてしまいます。そして是は更に「脚色を施した作り話」となっておりますから、まごうことなく小説だと思いますよ」

と。

本編

2022/8/29-2

「道理なるも、勘弁してよお」



「殆ど光の届かない深海でも生物が生息している事が確認されました」
ある科学番組がそう報じておりました。
是を耳にして自分などは
「凄い。よくぞそのような悪条件下に耐えたものだ」
と称賛したり自らの境遇に準え（なぞらえ）感動に打ち震えたりします。
（当然、自分の生活には全く関係ないと無関心でいる人もおります）
人間には他の生物と違って「意思（いし）」ではなく「意志（いし）」というものがあるせ
いか、そのような感想を抱いたりします。
例えば
「斯くの如き悪条件に対し強い意志を持って耐え、よくぞ生き抜いた」
等。

しかし、先にも申しました通り人間以外の生物には「斯うしよう」「何としても斯うするぞ」といった様な「意志（いし）」は存しませんのでこの代弁独白は全くのお門違い。完全なる人間サイド制作劇（ストーリー）でしかない様な事をその科学番組のゲストは言っておりました。

ならば、何故深海生物は人間が言う「斯くの如き悪条件下」で生息できたのか？

一言で言えば

「適者生存」

つまり「その生息条件に適合していたから」だそうです。

意志（いし）で「生き抜いた」のではなく選択フィルタリングに「引っ掛からなかった（間引かれなかった）」或いは「通過した」からなのだそうです。

主体意志による「勝利」ではなく所与条件下の結果「残」

此処に人間サイド劇作法（ドラマトゥルギー）の入る余地はどこにもない様です。

なので「頑張ったからご褒美に」とか「この頑張りを勘案して」等という情状もまるで成り立たないし通用もしない、と。

「天は我々を見放したかっ!!」

是は、無理な雪中行軍訓練で遭難した実在の部隊を描いた映画「八甲田山、死の彷徨」で主人公役の高倉健が天に向かって絶望の雄叫びを挙げた場面の台詞です。

換言すれば

「今日迄の我々の努力に対して天は報わず、なのか？ 理不尽極まりない!!」

でしょう。

「という事は、昨今の混乱、コロナ禍、戦争、長期天候不順、物価高。「よくぞこれらに今迄耐えて店を存続させてきた。しからば、それに報いて●●●のご褒美を授けて遣わす」展開筋からのご褒美は、まずもって絶対にあり得ない訳かぁ」

ため息がもれました。

「苦労はいつか報われるストーリー」に慣れ親しんだわれわれ人間には理不尽（不可解以外の何物でもない非道な仕打ち）に見えても、物事の自律的メカニズムである「ものの道理」換言すれば「生存条件通過フィルタリング後の「残」であるか否かの単純結果」からすれば「(人間にとっての) 理不尽こそ（もののメカニズム側からすれば至極当然の）道理」

と言いたいのだろう

とは想像が付きましたが、

コロナ禍の零細飲食業者である自分には大ショックでした。

「勘弁してよぉ」

置き場所に困っているからと、最近親方から譲り受けた我が家には場違いな程「ガタイ」のデカイ旧型液晶テレビの「迫力」映像を前に、そう漏らすのがやっとでした。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「チリツモに軍配」

うときゅう いっき

本編

2022/8/29

「チリツモに軍配」



「いざ死のうとなるとなかなか死ねない。死ぬには物凄くエネルギーがいる」という話を今迄に2回聞いた事があります。男性から一回と女性から一回。しかし自分の経験からするとそれはまるで反対に思われました。

「死んだ方が今より楽になれると思うから雪崩れ込む様に死に身を委ねるんだろう？なんでエネルギーがいるんだ？」

私事で誠に恐縮ですが今から数年前のその当時、余りにも苦しくて「あと何日だけ生きればいいという風に期限を区切ろう」と思った事があります。例えばあと3日だけ。

「それだけ我慢すればその先はもう耐えなくていいんだから、楽になれるんだから、兎に角あと3日だけ」と。

その間どうすればいいのか？何故3日なのか？

何故3日だったのかは今でもその算出根拠が不明のままですが、前の疑問の「どうすれば」つまり「どうして過ごせばいいのか？」については

「呼吸だけしていよう。何も考えずにただ、ただ、息を吸って吐くだけ。成る丈自然に大きく息を吸って、ゆっくり吐く。その繰り返しだけ」

としました。

是は後で分かった事です「ゆっくり自然にする深呼吸には抑うつ状態を改善する効果がある」のだそうです。

勿論それだけのせいではありませんが期限の3日間を過ぎても雪崩れ込む様に死に身を委ねる事なく現在に至りました。

そんな経験をしますと二人の言った言葉の真意は、完全なる反語、逆説、裏返し、つまり「死にたくなんかない。生きていたい」

というメッセージ以外の何物でもない様な気がしました。

更に申し上げますと、その裏には

「こう迄言っているのだから、無条件にそちらから手を差し伸べて」

というある種の「強要」「誘導」「はかり事」が潜んでいる様な気がします。

何故なら自分も最後の段階から見れば、未だ未だ症状が軽かった頃にそうだったからです。

自分で何とかするより相手に何とかして貰おう、もっと言えばさせようという事しか考えつかなかった頃の事です。

「こうなったのも人のせい。救われないのも人のせい。周りは全て加害者でいつも自分はその被害者だった」だから「そちらには自分を助ける義務がある」

と。

その事に自分なりの経験ややり方を通して気付いたのかどうかは分かりませんが、男性一人は現在元気に暮らす様になっており女性一人の方は他の要因もあって未だ大変な様です。

そういえば嘗て精神科の先生が自分にこう言っていた事を思い出します。

「抑うつ状態（世間では一般にうつ病で括りますが）というのは必ず治るんです。死にさえしなければ必ず「時」が解決する気分「変動」の問題なのですから死ぬのだけはやめて下さい。それこそ丸損ですから」

確かに死んだ後に分っても命は取り返せませんから命の丸損。

人がうつ病で死なずにすむのは何か「一発」の特効「薬」ではなく既述二例の様な些事が「塵も積って」の漢方的累積「経験」

彼方あ一発う、此方あチリツモお。

寄り切って塵積の勝ち

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「古 狐」

うときゅう いっき

本編

2022/8/30

「古 狐」



ある時息子に

「今の事業始めた切掛けって何？」

と訊かれ

「特に是といった切掛け(event)はなかったなあ。気が付いたら移っていた。すーっと自然に。新たな世界とかの境界、そんなの、なあんもなかったなあ」

処が他の人の話、特に成功談などをトーク番組等(とう)で耳にするとほぼ 100%

「ある出来事(event)があってそれが切掛けとなって視点が変わりました。よしっ、是で行こう。是ならいけそうだな。そう直感しました」という流れ。

「えっ、え、そうなの？」

人は十人十色ですから、そういう例もあるのだろうとは思いましたが幾ら何でも 100% というのはあり得ないですし、自分の心象ともかけ離れたものだったのでそう呟いてしまった訳です。

無論誰しも自分は自分の「最大の味方、後援会、応援団」ですから、自分も

「是って後から脚色した「人に歴史あり」とか「いつ見ても波瀾万丈」とかの類じゃないの？」

と相手を目いっぱい疑い最後は

「うっそ、くせえー」

という結論。

ところで最近

「小説って創作よね。エッセーとかドキュメンタリーって創作じゃないわよね。だのにエッセーもどきやドキュメンタリーもどきを小説っていう創作物扱いするの、なんかずるくない？」

ある若い女性の方から突然そう言われました。

「それって僕に言っているの？」

「オジサンってそうなの？」

確かに自分は「物書き」です。職業ではありませんが「物書き」

つまりそう質問されてもおかしくない対象でした。

それで

「人は話をしたり物を書いたりする時、必ず脚色するんだと思いますよ。目的は様々で自分を特別に見せようという見栄からのものあれば、arrange した方が相手に分り易くなるからという誠意からのものもあります。しかしいずれも脚色は脚色。言い方は悪いですが作り物である事には変わりはありません。しかし考えてみれば脚色の無いものは無い気がします。

人は常に作って話し作って書く。脚色は人の本能。

仮に AI に脚色させたら即こなす。が、反対に完全に無脚色な物をと命じたら呆然自失で立往生。だってデータを学習させた、脚色が本能の人間に規定された AI にとっては全くのフィールド外ですから」

「ムズイ」

「エッセーやドキュメンタリー、お馴染み日常会話に日記、いずれ脚色なしなんてあり得ない気がします。換言すれば人が書く物は全て脚色付フィクションである小説。それ以外書けない。なので、自分のも自動的に小説となる」

話しながら、形こそ違え成功談も自分の書き物も「作り物」という点では同な事を図らずも自身に証明してしまいました。

多分無意識に、成功談話を一方的に見下した事に何か引っ掛りを感じていたのでしょう。

そしてついこの間、息子にした答えの中でさえ既に

「無脚色を装った脚色術を使い、受け狙いのいい子ぶりっ子を、番組を非難した当の自分がしていたのではないか」

との疑念

裏の裏かく渡世術

非難逆手の図り事

仮面の下で隠れズル

その反省すら脚色に思えてならない

古狐の自分でした。

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「な あ ん だ あ」

うときゅう いっき

本編

2022/9/1

「なあんだあ」



昔、自分の子供が心身共に耗弱した様な時期がありました。かなり長い間です。
その様子を見るにつけ、父親として何か一つも気の利いたことを言って力添えしたかったのですが、いい言葉が何も浮かびませんでした。
ダメな親だと思いました。
「自分は本当に子どもの事を思っているのだろうか？」
とさえ疑いました。
そんな折、ある一片の小説を読みました。
そこには、娘が学校でいじめられている事を知った父親の話が書いてありました。
いじめられていることは素振りにも見さない娘。親には知られたくないのだろうと思ったと書いてありました。
ならばこちらが知っていることを悟られずにしかも娘を励ますいい手立てはないものかとその父親は考えます。
しかしいい案が浮かびません。そんな折、娘が学校から帰ってきて、なにごともなかったようにふるまう姿に接し、父親が心の中で独白した台詞が書いてありました。
「こんな時、気の利いた言葉一つ思いつかない自分。情けない親だ」
筋書きは大体そんな感じでした。
それを読んだとき

「おんなじだ」

と思いました。

そして

「なあんだ、なあんだあ、自分だけじゃなかったあんだあ」

と物凄く共感し、安堵しました。

それ以降そんな目で辺りの様子を見聞きし、よくよく相手と話してみると同じ様な例がぼろぼろと転がり出てきました。

「なあんだ、なあんだあ、そうだったんだあ」

あるレベル以上に達したもののしか口にしちゃいけない。それ以下は失格。恥さらし。

要するにダメの烙印を押される事を恐れて表に出せずに孤立していた自分に気付き、又相手も同じ事を恐れて表に出せず、お互い同士が牽制し合って孤立している事にも気が付きました。

その頃又ある別の小説を読みました。

そこには末期癌に全身犯されて、その痛みに病院のベッドの上で喘ぎ、苦しむ夫に何もしてやれないまま

「ただ、ただ手を握って、何時間も、何時間も、其れこそ夜が白む迄背中をさすってやる事しかできない」年老いた妻の描写がありました。

それを読んだ時

「何も言っていない。気の利いた事なんて何処にもない」

だのに胸に迫るものがある。

「気の利いた事なんて言わなくていいんじゃないだろうか？なんで気の利いた事を言わなきゃいけないって思っていたんだろう？今迄」

なんだか目から鱗が落ちたような感じでした。

不図その時それ迄見聞きしてきた数々の名場面とその時の決め台詞が次々と浮かんできました。

映画「カサブランカ」のハンフリー・ボガード、名月赤城山の国定忠治、「シェーン」で少年に come back Shane と言われ、振り返ることなく去っていく馬上での無言などなど。

「これがスタンダードだと思い込んでいたんだ。そんなスペシャル、毎日、毎回ある訳ないのに」

二枚目の鱗が目から落ちました。

余りにあっけない氷解（種明かし）に、思わず嬉しくなって

「なあんだあ」

ポン、

と膝頭を叩いてしまいました。

凡そ 20 年前の出来事です。

本編

2022/9/2

「女子にも男気」



「あんた方どこさ、肥後さ、肥後何処さ、熊本さ。熊本何処さ。仙波さ。仙波山には狐がおってさ…」

それ位は知っていましたが

「あんたあ、こいばあ、知っとうやあ？」

と言って次に姉ちゃんが歌い出したのが

「でんでらありゅうばあ、出てくるバツテン、でんでらありゅうばあ、でえられんけん、こん来られんけん、これれられんけん、こおん、こん」

こうなってくると何が何だかさっぱりわからなくなっていました。

「九州じゃあ、よう歌いよる、とっ」

姉ちゃんは当時中学生で、前年に自分達兄弟が九州に遊びに行った返礼に九州の叔父さんの処から遊びに来ていたのです。

ある時その姉ちゃんが「折角九州から来たけん、買い物がてら都心ばあ遊びいん行きたかあ。●●ちゃん、案内ばあせんね」というので姉ちゃんにお供をして国電（今の JR）で新宿に出る事になりました。

9時過ぎとはいえまだ通勤時間帯の余波が残っていて結構込んでおりました。

処が電車に乗って間もなくその姉ちゃんが

「あんたあ、なんばあしょっとねっ」

と突然大声を上げたかと思うや、むんずと掴んだ男の手首を天高くグイと振じ上げたのです。

その気合が余りに凄く瞬時だったせいか振じ上げられた当の本人初め周りの乗客一同、羞恥対非難以前に両者共、ただ只呆気にとられ「ぼっかぁん」と口を開けているばかりでした。

田舎から出てきた色黒セーラー服の女子中学生があろう事か如何にも大都会慣れした風情の大の男を気合諸共、電光石火に一喝。

「姉ちゃん、カッコんよかぁ!!」

この姉ちゃんの父、つまりうちの父の弟である叔父さんというのが中学しか出ていなかったのですが、当時としては極めて珍しい薬大出の娘さんをカッさらって駆落ちし、後に娘さんの実家から許しを得て結婚を果たしました。

その後、娘さんの実家の家業である薬局を引き継ぎ、姉ちゃんが東京に遊びに来た頃には県内でも有数の薬局に迄仕立て上げていた人物でした。その時の娘さんというのが当然ながら姉ちゃんのお母さんです。

一方叔父さんの兄つまりうちの父も（息子の自分が言うのも変ですが）是又なかなかの人物で、終戦直後南方戦線で捕虜となり、指揮官だった事もあって捕虜になったとはいえ兵員千名の長として、捕虜の金品目当ての原住民の夜襲から身を守る武器の無いなか、何とか切り抜け、全員の乗船を見届けた上、最後の一人として2年後に帰国。帰国後も会社で散々苦労した様ですが愚痴は申しませんでした。

当時「男気」という言葉は知りませんでしたが将に父と叔父には子供ながらに「男気」を感じておりました。

男気というからには無意識に「男のもの」と思っておりましたが女子とはいえこの姉ちゃんにもその「男気」を感じました。

女なのに「男気」

今思うと

「そうする事でその先どうなるかの身の保証はないが、道理に照らして筋を通す」是を「男気」と呼ぶのなら女子にもあって当然の様な気がしております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

(改題版)

「おなごも男気」

うときゅう いっき

2022/9/3

本書はその18.の改題版19.でございます。

前作題名が「女子にも男気」

で

今回題名が「おなごも男気」

です。

因みに九州弁の「おなご」は漢字にしますと「女子」でございます。なので、前作「女子」を今回は九州弁の「おなご」に

「にも男気」を「も男気」に。

つまり今回の題名は前回の題名から「に」を取り除いております。

前作18.を上梓したものの、どうしても最後の部分に引っ掛かりを感じ、本旨が伝わっていない気がしてならなかったので、今一度推敲の上、再度題名を改めて上梓いたします。18.と19.をお比べいただきますと、自分の本旨がより分かりやすくなるかとも思われます。

尚、19.発刊にあたっては相当なるご批判覚悟で書き直しております。

本編

2022/9/3

改題版「おなごも男気」



「あんた方どこさ、肥後さ、肥後何処さ、熊本さ。熊本何処さ。仙波さ。仙波山には狐がおってさ…」

それ位は知っていましたが

「あんたあ、こいばあ、知っとうやあ？」

と言って次に姉ちゃんが歌い出したのが

「でんでらありゅうばあ、出てくるバツテン、でんでらありゅうばあ、でえられんけん、こん来られんけん、これれられんけん、こおん、こん」

こうなってくると何が何だかさっぱり分からなくなっていました。

「九州じゃあ、よう歌いよる、とっ」

姉ちゃんは当時中学生で前年に自分達兄弟が九州に遊びに行った返礼に九州の叔父さんの処から遊びに来ていたのです。

ある時その姉ちゃんが「折角九州から来たけん、買い物がてら都心ばあ遊びいん行きたかあ。●●ちゃん、案内ばあせんね」というので姉ちゃんにお供をして国電（今の JR）で新宿に出る事になりました。

9時過ぎとはいえまだ通勤時間帯の余波が残っていて結構込んでおりました。

処が電車に乗って間もなくその姉ちゃんが

「あんたあ、なんばあしょっとねっ」

と突然大声を上げたかと思うや、むんずと掴んだ男の手首を天高くグイと振じ上げたのです。

その気合が余りに凄く瞬時だったせいか振じ上げられた当の本人初め周りの乗客一同、羞恥対非難以前に両者共、ただ只呆気にとられ「ぼっかぁん」と口を開けているばかりでした。

田舎から出てきた色黒セーラー服の女子中学生があろう事か如何にも大都会慣れした風情の大的男を気合諸共、電光石火に一喝。

「姉ちゃん、カッコンよかぁ」

この姉ちゃんの父、つまりうちの父の弟である叔父さんというのが中学しか出ていなかったのですが、当時としては極めて珍しい薬大出の娘さんをカッさらって駆落ちし、後に娘さんの実家から許しを得て結婚を果たしました。

その後、娘さんの実家の家業である薬局を引き継ぎ、姉ちゃんが東京に遊びに来た頃には県内有数の薬局に迄、していた人物でした。その時の娘さんというのが今の姉ちゃんのお母さんです。

一方叔父さんの兄つまりうちの父も（息子の自分が言うのも変ですが）是又中々の人物で、終戦直後南方戦線で捕虜となり、指揮官だった事もあって捕虜になったとはいえ兵員千名の長として、捕虜の金品目当ての原住民の夜襲から身を守る武器の無いなか、何とか切り抜け、全員の乗船を見届けた上、最後の一人として2年後に帰国。帰国後も会社で散々苦勞した様ですが愚痴は申しませんでした。

当時「男氣」という言葉は知りませんでしたが将に父と叔父には子供ながらに「男氣」を感じておりました。

男氣というからには無意識に「男のもの」と思っておりましたが女子とはいえこの姉ちゃんにもその「男氣」を感じました。

今思うと

「そうする事でその先どうなるかの身の保証はないが、道理に照らして筋を通す」
是を「男氣」と呼ぶなら男女の境は無い。

爾来自分は

「女でん男氣の無かおなごはどうも好きになれんと」
です。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「お詫びの心算（つもり）」

うときゅう いっき

2022/9/3-2

本書はその20.でございます。

前作で尊敬する父の事を書きましたら、同じく尊敬する母の事を思い出したので、した
ためました。

本編

2022/9/3-2

「お詫びの心算（つもり）」



家に戦艦ミズーリ号のプラ模型があります。全長 60 cm位で可成りの大きさです。

この模型はお店に出入りしている新聞屋さんのお客さんの遺品です。

そのお客さんは孤老の方で、ある日新聞屋さんがそのお客さんの家に集金に行った折、新聞受けに数日分の新聞が溜まっているのを不審に思い警察に届けた処、自宅で亡くなられているのが見つかったのです。

この亡くなられた方は孤老というからには一人暮らしでカメラやプラ模型作りが趣味だった様です。お金には余り不自由しておらず元気そうで、何憚ることなく毎日を気儘に過ごしている様に新聞屋さんには見えたそうです。

しかしある日突然亡くなられてしまった。

新聞屋さんはその孤老の方の遠い親族から有償での遺品整理を頼まれ数日掛りで整理した後、この戦艦ミズーリ号のプラ模型だけが整理しきれずの残ってしまった、その顛末を自分の処に四方山話として持ち込んできたのです。

「このプラモ、どうしようかと思って」

「だったら自分にください」

そんな経緯があって家に見ず知らずの方が作成した戦艦ミズーリ号のプラ模型があるので

す。
「あんたも物好きだね。確かに手の込んだ作りとはいえ、こんなもん引き取ってどうするの」

実は自分にはある種の「トラウマ」があったのです。

それは家の空き部屋整理の折不注意から、他に一切の書き物も是と言った遺品も残さなかったお袋の唯一の著作物兼遺品である「自身の注意書きを半世紀に渡って書込み続けてきた料理本」誤って捨ててしまった記憶でした。

それに気付いた時自分は真蒼になりました。廃品回収業者からごみ焼き場迄八方手を尽くしましたが見つかりませんでした。

お袋には料理以外特に是といった趣味はありませんでした。

働き者で、趣味としての料理を作っている時以外は兎に角何かしら働いておりました。

掃除、洗濯、炊事は言うに及ばず普通なら植木屋さんに任せる様な事も自分でこなしておりました。例えば庭の芝生の間に生えた雑草の根切りとか生垣の剪定迄も。

仕事はどれも丁寧で、雑草の根切り一つにしても釘を使って一本一本、半日掛りで行っておりました、

夕食もお膳に並べはするのですが親父が深夜に帰宅する迄一切手を付けず、帰ってきてから温め直して一緒に取っておりました。待っている間疲れから転寝をし、何度も茶伏台に頭をぶつけていたのを覚えております。

そんな

「お袋の一生を消してしまった」

と言う自責の念をプラ模型が呼び覚ましたのです。

この「手の込んだ作り」のプラ模型を見た時、咄嗟にそれが思い出され

「この戦艦にも「物言えぬ故人の年輪」がある」

様な気がして引きとる事にしたのです

初めは持ち込先のお店に置いてありましたが、事情を知らないお客さんが

「あの店、右翼みたいよ」

と妙な噂が流れ、人知れず自宅に移したのです。

「そう迄して何で？」

と申せば

「お袋への詫びの心算（まねごと）」の様な気もしております。

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「それ前提で…」

うときゅう いっき

2022/9/4

本書はその②①でございます。

小説というにはちょっとどうかとも思いましたが。

兎に角何でもやってみる事にしておりますので。

本編

2022/9/4

「それ前提で…」



普通は「笑う門には福来たる」笑門来福ですが当店では「笑う門には税務署来たる」笑門来泣（しょうもんらいなく）でした。

「泣」は「泣きたくなる様な出来事が来た」或いは「泣く子も黙るマルサが来た」という意味です。

「売上が悪いからと言って店主が仏頂面をしていたのでは、それが従業員に伝播し、ひいてはお客さんに不快感を与え、結果客足が増々遠のく」

という負の連鎖を体験した過去からコロナ禍初め諸物価高騰等による売上減の昨今においても従業員の前では成る丈笑顔でいたのですがそれが却ってよくなかった様です。

「この不況下で来客数が目に見えて減っているにも拘わらず店主はいつもニコニコ顔でいる。怪しい。きっと何か裏がありそうだ。一度調べてみてはどうか」

と「一般市民を名乗る匿名者」から上述のタレコミが税務署にあったらしいのです。

無論当店には裏帳簿等御座いません。

コロナ禍で1日当り最大で6万円が支給されると聞く給付金、支援金、協力金の類さえ一切戴いておりません。否、戴けないのです。

先ず支給条件である売上高3割減以上というのに対し当店は逆に頑張ってしまった事が災いして売上2割減止りで対象外。しかもコロナ禍があろうがなかろうが元々が赤字の経

営だったので「そんな危ない処に融資する金はない」と国策銀行から刎ねられてもいるのでとても左団扇のお殿様であろう筈がないのです。

しかし外からはそうは見えていない様で。

結果、国税から抜打ち査察が入り帳簿類初め目星しい資料を持っていかれました。

しかし先にも申しました通り当店には帳簿は一冊のみ。裏も表もありませんので程なく押収された書類は返却されて参りました。

税理士を雇う余裕のない当店では自分が代わりに決算書等々を作成しているのですが、随所に計算間違いと税務用語の解釈間違いがあったらしく、再計算によるその分の追徴納付を命ぜられました。但し故意ではないので重加算課税とはなりませんでした。

まあ、税務署にしてもガサ入れした以上、メンツに掛けて手ぶらと言う訳にもいかなかったのでしょうか。

ところがこの様子を見て又々「マルサがホシを挙げに来た」という噂が広まりました。

しかしそれは誤解だと言いたくても、まさか道行く人々一人一人に「実は」と説明する訳にもいかず、結果泣きっ面に蜂で泣き寝入り。

それにしても噂は怖い。

噂が最初と最後で同サイズであるなら未だしも、是に尾鰭、足鰭、胸鰭とついていくともう手の施し様がありません。

そしてこの尾鰭、足鰭、胸鰭は「得た情報に対してよりセンセーショナルな情報を盛る事で発信元よりむしろ「私が知りたいのはソコよ」の「ソコ」提供者としての自分の方に高い注目を集めたい。その為ならでっち上げも何のその」

聞いている方にしても「面白ければいいだけで本当かどうかなんて全く関係ない」

そして両方とも、自分の中にもある。

となれば

「それ前提で行くしかないか」

原稿用紙3枚以内掌編小説

「コミュニケーション」

老斗シリーズ

「結構、義憤」

うときゅう いっき

本編

20220907

「結構、義憤」



小学生の頃、兄弟二人で九州に遊びに行ったとき

「遠路はるばる東京から来たのだから旨いものを喰わせてやろう」

と叔父さんが「海老の踊り食い」に連れて行ってくれました。桶に入っている生きた海老を出汁に付けてそのまま食べる当時でも可成り高価な「料理？」です。

叔父さんが折角、そう迄してくれたのに自分は

「可哀想だからヤだ」

と一斉手を付けませんでした。叔父さんは酷く不機嫌になりました。

又、中学に入りたての頃、父が我々子供三人に

「ビフテキを御馳走してやろう」

と街の洋食屋さんに連れて行ってくれました。

この時も自分は

「自分達だけいい目を見るのはヤだ」

と手を付けず、今度は父を不機嫌この上ない気持ちにさせてしまいました。

別に善人ぶっての話ではありません。

話は変わりますが小学校四年生の時、詰り九州に遊びに行った小学校高学年になる前 Happy End で終わる外国映画をテレビで見る度にいつも二つの事を思いました。

一つは

「ハッピーエンドで映画が終わった後、最後のシーンでハッピーだった二人は映画に映らなくなってもずっとハッピーでいたんだろうか」

と

「映画には主人公があるけれど世の中にも主人公ってあるのだろうか？もしみんながそれぞれ自分だけが主役の主人公になりたいと思えば、その望みをかなえるには逆に人口の数だけ別々に地球を用意しなくてはならなくなる。でもそんなに沢山映画セットってつくれるんだろうか？物凄くお金かかりそうだし。それにわき役とかエキストラとか撮影スタッフなんか入れるともものすごい数になる。それはどうするんだろう？」

等など、実に変な事を考える子供だったのです。

そんな自分が大学生になり本を読む時間が増えてくると、読んだ本から得た知識を元にそういった自分の「妙な傾向」を分析してみたいと思い始めました。

というのも、あれ以降みんなから余りにも「妙な奴」扱いされる事が増えていたからです。

その結果出てきた答えが

「本人側からすれば自分がメインで周りはそのオマケに過ぎないが、世界の側から見れば「自分がメイン」だと思っている我々全員が実はメインでもオマケでもなく単に等列等価に「配置」された「駒みたいなもの」で、後は「無意志無目的に作用しているだけの」力学様のものが淡々と自動運転しているだけ。詰り地球は矢張り一つでその中に特段主人公もいない」

それが後者へ。

そして前者へは

「だのに万物の主役だと疑いもしない自分達人間は、生きている海老をそのまま食うなど残酷としか思えない「踊り食い」を平気でする。あれは踊ってるんじゃなくて苦しみがいている「のた打ち回り食い」だったのに」

そう感じて手を付けなかったのかな？

そしてその二つを纏め

「幾ら無意志無目的に自動運転されているのがこの世の真実。としても、殺生与奪の権、乱用の踊り食いや勝てば官軍用のビフテキばかりでは余りに理不尽」

大学生だった当時の自分は結構、義憤でした。

おしまい

(著者プロフィール)

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

一九五三年東京生まれ。

早稲田大学第一文学部露文学科を二回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。

四十歳から五十二歳まで十二年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社うとQを設立。

現在主業はネパールカーリー屋。

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つのk。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQナマステ別館堂出版部

〒二一五 - 〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話：〇四四 - 九八九 - 一六九八

発 売 株式会社 うとQナマステ別館堂出版部

編 輯 しばらくの期間「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン&DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二三年五月十五日 初版発行

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、

複製することは禁じられています。

（その他著書）

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。